る時に當りて胚胎せる子供は、生れて弱き者多きは一家の兄弟姉妹間に健康の度等しからず、兄は無病健全なるに、妹は常に病に難むものあるによりて知ることを得べし。

第七、姙身中母の健康及び行狀　古來胎症の說あり爰に之を再ひするの要なかるべし。

以上擧げたる事項は、何れも其子供の健康に影響を與ふべき兩親の事情なれども通例育兒學等に於ては第一項乃至第六項に就きては實際に論述すること甚だ少く、僅に第七項に就きて述ぶるものあるのみ。然れども前に云へるが如く兩親の殆んど凡べての事情が遺傳的に其子供に及ぼす力は精神の上又身体の上に顯はるゝこと頗る重大なるものなれば世の父母たるもの又は父母たらんとする者は、以上述べたる事項に付きて常に最も細心注意せざるべからざるなり。

幼兒を世話する人の感情につきて

ふみ子

私共の幼稚園には毎年四月に新しい幼兒をいれますが、其數は本園と分室と合せて、ほとんど六十人近くございます。此等多人數の幼兒の性質は其顏の異つて居る如くに色々ありますが、其の家庭は亦樣々であります。しかしまづ大別なれば本園の方は中流以上、分室の方は下等社會のものでございます。處が此等の幼兒の兄や姉は曾てこの幼稚園で保育を受けたことがあり、また現に保育されつゝあるものも少くありません。そこで、其幾組かの兄弟について比較して見ますと、見るか

ら其体の樣子といひ、擧動といひ、音聲といひ、性質といひ、兄弟であり、姉妹であるといふをがチャント能く分る樣に相似て居るのもあります。またそれ程でなくも其幼兒を知るにつけて段々其兄弟の通有の點を見出すこともありますが、稀にはこれでも血を分けた兄弟で一家の中に育てられて居るのであらうかと疑ふほど異つて居るのもあります。勿論兄弟姉妹だからと申しても皆々左樣に似て居るとも限りません。ある幼兒は父の性を多く受けて居るとか、またある幼兒は母の遺傳を澤山受けて居るといふ樣な事もあり、また幼兒を育てゝ居る父母の心身の狀態も何時も同じでありませんから、從て幼兒は其影響を受けるといふこともあり、尙其他種々の原因で異るのでありませうが、しかし同し父母の許で育てられて居る幼兒でありますと、幼稚園時代では其幼兒の感情は一致して居る點のあるのは普通であります。しかるに姉は誠に少しの事に激し易い、ことにつまらぬことに直ぐ怒る、また總ての物を愛せぬ、即ち草花も愛せぬ、動物も愛せぬ、朋友も先生も愛せぬ、從つて同情心が乏しいといふ樣な風でも、妹はこれとは大ちがひで、いつでも穩かである、優しくつて何者でも喜んで迎へる、友達と樂しく交つて行くといふのもある。また弟は意地が惡い非常に亂暴で、大膽で、物を恐れるといふことを知らぬ、けれども姉は非常のこわがりで、犬が怖い、蚯蚓が怖い、蛙がこわい、又人が怖い、支那人や西洋人が參觀にまゐりますと怖がつて隱れてしまふといふのもある。また妹は奇麗なことが好である、美しい者を愛する、それに姉は左樣な事は一向平

氣であるといふのもある其他これに類した例は澤山ある。そして幼兒のこれ等の感情が其の將來の幸福にいかに重大の關係を、以て居るかといふ事は今更申すまでもありません。

そこでどういふ家庭の幼兒に斯樣なのが多いかと申ますと、右の樣な例は、下等社會の幼兒の方にはほとんど見とめませぬ、また本園の幼兒でも家庭で父母が子供の教育の權を握つて居と、雇人をしてこれを助けさせるもの丶中には、斯樣にまで兄弟姉妹の感情の異つて居るのは少うございます。即ち其多數は乳母や附添人に全く幼兒を委托して、父母がこれに關係せぬといふ家庭の幼兒であります。立派な父母を持ちながら（中にはさうでないのもありますが）其感化を受けることの出來ない憐むべき上流社會の幼兒に多いのであります。此等の家庭では幼兒が三人あれば三人、四人あれば四人の乳母または附添人を置きます。各の乳母や、附添人は各一人の幼兒丈々專一に世話して居ります、斯樣な有樣でありますから、幼兒等は其養育者の影響を受けずには居られません。そして其幼兒を世話して居る人達の感情といふものは固より一樣ではありません。して見れば、此等の家では同し兄弟でも姉妹でも、其感情の異つて居ることは當然の理であります、其上下等社會否下等社會ばかりでありませんでも、中流以下の幼兒になりますと、幼い時から戸外で遊ぶことが多いものでありますから、幼稚園時代の年齡に達します前に、已に割合に多くの人に接して幾らか其影響を受けて居ります。從て左程に一貫して居る傾を持つて居るといふのはありませんが、一人

の子に一人つゝ乳母や附添人が附て居る樣な家庭では三四才までは他に接する人が極めて少うございますから、特更に世話して居る人の影響を受けるのであります。

何故に幼兒はこれ程世話する人の影響を受けるかと申しますと、感情といふものは摸範によつてなるものであります。即ち常に目の前に示されて居る實例によつて、自然に得るのであります。即ち乳母や附添人が無暗に物を怖がつて見せると、幼兒は何時の間にか何でも恐れる、また乳母が何時も穩かな心持て居ると幼時も何となくふうわりとした圓滿な子になる、其感情の感染することは丁度鉄が磁氣を受ける樣なものであります。故に幼兒によい感情を持たせようと思へばまづ第一に乳母や、附添人か良い感情のものでなければなりません。この幼時感情の敎育といふものは口ですることは六ヶ敷もので、實例によつてするより外ありません、まして幼稚園時代の幼兒は口でいふことはなか〳〵分りませんから、全く模範を示してこれにならはせるのであります。實に幼兒を世話する人の感情によつて大切な幼兒の感情の基礎を作ることを思へば、(情は遺傳もありますが)親達は非常なる注意をもつて然るべき附添人や乳母を撰ばなければなりません。

近來乳母を雇ひますのに其人の体質や、遺傳や、年齡や乳の質や分量など色々注意する樣になりまして、まことに結構でありますが、これと同時に敎育的の眼をもつて其人の感情如何といふことをしらべる人は稀であります。これは尤も愛するわが幼兒に對して親たる人の道としては大に欠け

て居るといはなければなりません。そこで如何な感情を持つて居る人を撰べばよいかと申しますと、高尚な感情を持つて居る人は勿論よろしうございますが左樣な人は得ることが六ヶ敷でございますから、まづ同情、憤怒、恐怖、悲歎等の感情を正當のものに向つて起す人ならばよいと思ひます。怒るべき時、怒るべきことには怒り、恐れるべき場合には恐れるのが至當であります、中には自分自らも總ての感情を抑へ、また幼い兒の感情も抑へつけて、よい躾方であるとして誇つて居る附添人もあります。ことに怒の情などは如何な場合でも起させぬ樣にして不自然に情を撲滅しやうと努める人もありますが、たとひ怒の情でも正しい場合には起すのがよいと思ひます。つまり感情は起すべき場合には正當な度合に起す人がよいのであらうと思ひます。

私は同じ兄弟姉妹でも其感情が非常に異つて居ることから、それは乳母や附添人に大に關係して居るといふことを特に感じたのでありますが、これは直にわれ〳〵の樣な多くの幼兒を世話して居る人の省るべきことであります、自分達は只一人や二人ばかりの幼兒に影響を及ぼして居るのでありません、幾十人といふ幼兒に關係があります、私共の責任は決して輕くはありません。

またこれは私共の樣な幼兒を世話して居る人ばかりではありませんで苟くも教育に耳をおいて居る總ての人の注意すべきことであると思ひます。ことに自分は智識を得るに汲々として自分の感情を練習することに心掛けませんと、例令生徒の智育の點に於は成功しましても情育に於て大に失敗す

るでありませう。

今昔いろは料理

石井泰次郎

（え）

箙田樂の拵方

これは通常の田樂の仕方にして、豆腐を先切方して串にさし、爐にかけて燒さて、みそをぬりて器にもる時に、つねの箱より深き箱にして中ばに簀をおく趣向にして、其簀の上につねの箱のやうに串をかくる所をつくりて、田樂を盛る前に、簀の下に梅花をいれおきて田樂を盛りて後に、わきより箱の簀の下へと熱湯を入るべし、さて蓋をして出すべし、又梅にかぎらず、櫻の葉にても、かしは葉にても、菊の葉にても同し仕方にて出すべし

えびらの名は梅にかぎるなり

えび玉子の拵方

さいはき海老にても車海老にても、頭をさりせわたを出して、串をさしてまがらぬやうにして、熱湯の中に鹽を入れたるに入れてゆでて、取上てかはをさるべし、さて玉子は煮ぬき玉子にして、黄味と白味とをわかちて、別々に、先白味より馬尾篩にてうらごしゝ、次に黄味をこすべし、こす時に砂糖と鹽を入るべし、さて白味をそとに黄味を内にするやう布巾の上に美濃がみをしきて上にのばし、其上に海老を串をぬきて切方したるをのせて玉子にてくるむなり、さてくるみたるを布巾ぐるみ蒸籠に入れてむすべし、十五分間ほどむして取出して布巾をとりて、切方すべし是はいと手やすき料理法なり。